

会 議 報 告 書	
会 議 名	平成28年度第3回草津市社会教育委員会会議
日 時	平成29年2月27日(月) 自 10時00分 至 12時00分
場 所	草津市役所6階 教育委員会室
出 席 者	委員：横山委員長、辻本副委員長、石本委員、鈴木委員、 岸本(修)委員、大林委員、竹村委員、仁科委員、 岸本(岳)委員、内田委員、安達委員、西川委員 事務局：増田生涯学習課長、吉田参事、小島主査 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無
記録作成者	生涯学習課 氏名 吉田 万里 印 内線(2773)

1. 開会

2. 委員長挨拶

2. 議事

(1) 報告事項

- ・ 湖南甲賀社会教育委員会連絡協議会研修会について
- ・ 第2回生涯学習フォーラムについて

【委員長】

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。
まずは、報告事項2本でございます。
これは、まず事務局から、よろしく願いいたします。

【事務局】

湖南甲賀社会教育委員連絡協議会研修会について報告
実施日 平成29年2月6日(月) 13:30
場所 草津市役所8階大会議室
内容 講演「生きるから、生きるために夢に挑戦」
講師 JRA元騎手 常石勝義さん

【委員長】

ありがとうございます。
それでは、第2回生涯学習フォーラムについてでございますけれども、このことに

つきましては、A委員とB委員が御参加されたというふうにお聞きしておりますので、感想など御報告をお願いします。

【A委員】

はじめに、社会教育というのは何かということをお話くださいますと、私は初めてだったので、すごく重要なものなんだなというのは、しっかりと感じました。そして今は衰退しているものである。今、私は小学校のPTAから来てるんですけども、小学校のPTAの中でも、大人の教育という部分をしていかねばいけないというようなお話をさせていただきました。

PTAの部会におきまして、広報を作成してるんですけども、学校のPTAと、地区でやっている社会教育というものが、どこかで全体で重なればいいなというふうに感じました。

【委員長】

ありがとうございます。B委員お願いいたします。

【B委員】

私も吉田代表理事のお話を聞かせていただいて、4月1日からの地域での公民館活動的なものに対して、心配したような感想で帰ってまいりました。

【委員長】

ありがとうございます。

B委員の御心配いただいていることが、これからの協議事項の部分におきましても重大な背景となるわけでございますので、そのあたりを話し合っていきたいと思っております。

それでは、報告事項につきましては、以上とさせていただきます。

(2) 協議事項

・研究テーマ「体系的な生涯学習システムの構築」について

①議論の進め方について

②提言書の構成について

【事務局】

協議の進行について説明

- ・年間スケジュールについて
- ・事例研究について

【委員長】

事例研究ですが、例えば、県内でありましたら、湖南省では研究会をつくって、来

年度、ある市民大学をつくっていかうということを進めておられます。

それから、所管課が社会教育・生涯学習とは違うんですが、近江八幡市におきまして、ここは未来づくりキャンパスというのをつくりまして、その中の一環としまして「地域資源活用塾」ということをされています。これは地方創生の交付金をとってきまして、地域のコミュニティビジネスを20人ぐらいの公募をいたしまして、グループにそれぞれ自分の地域の課題ですね。いろんな課題がありますが、福祉の問題から、貧困世帯の問題とか、環境問題とか、地域活性化とか、それぞれ5グループあったと思いますけど、それぞれでテーマを設定して、その解決のためのモデルをつくるという、新たな人材育成の塾を今年度から始められました。

3月5日、来週ですね。今週末の日曜日に、実はその成果発表会というのがございますので、ここの状況なんかを見に行つてはどうかというのも一つあります。

ここは、所管課が生涯学習課ではなくて、政策推進課という企画部の中枢の部分ですね。草津市で言うと、企画調整課が指導してるんですが、これも幅広い意味での生涯学習政策、人づくり政策、社会教育政策だと思うんですね。まさにそういうところが求められてるんじゃないかなというふうに考えます。

そういう意味からしますと、あまり県内におきまして、実はそんなに華々しい、今市民大学等をやってるところは、ほとんどないといったところがございます。

いくつかの自治体で市民大学のようなものを始められていますが、まだまだ趣味・教養の域を出てないんですね。わが町のよいところを知り、それをまちづくりにつなげていかうということを試みられてるんですが、肝心のそこは余り強くないわけなんですね。

私どもは、それ以上のものを目指さなきゃいけないというふうに思っておりまして、他のところと違うのは、先ほどもB委員がおっしゃったように、まちづくり協議会の存在ですね。ここを担っていく地域の人材をいかに育てていくかといったところが非常に大事でありまして、ここが決定的に違うと。

先ほど申し上げました、湖南市、それから近江八幡市、ここはいずれもまちづくり協議会を導入しております。それに比例しまして、今度、草津市もそうされていくということですが、一括交付金を交付していくと。その中に、社会教育にかかるお金というもの、あるいはその中身というものをいかに担保していくのか。ここが問われてるわけですね。

こういった仕組みを、やはりまちづくり協議会の所管課におきましては、例えば、草津市で言えば、まちづくり協働課が所管しておられるわけですが、ここと生涯学習担当課の連携というものが、ほとんど図られないことが多いんですね。

それをやはり打破していかなきゃならんということで、後ほど、また御説明させていただきたいと思いますが、草津市のほうでは、私も入らせていただいて、コミュニティ事業団が音頭をとりまして、そこで生涯学習課さん、まちづくり協働課さんに入つていただいて、今研究などを進めてきました。皆さんに原案を示しながら、この社会教育委員会議で練り上げていきたいなというふうに思っていますが、第1回目のと

ころでは、そういったことを参考にするような自治体を視察なり、あるいは来てもらって話をさせていただくとかいうようなことをしていきたいなというふうに考えているところでもあります。

【C委員】

詳しい方に来ていただいて、お話を伺うのも一つの方法かなと思います。

【B委員】

甲賀市でも、社会教育委員会議で地域コミュニティと公民館について提言をされていますが、私は、甲賀市の提言書は、手順としてはすばらしいと思うんです。

本市の場合、そういったことの手順を踏まずに、組織をつくること、機関をつくることに優先されて、人材不足だと思うんです。自治連合会あたりの役員構成を利用して、まちづくりに入ってますから、私が先ほど、冒頭でお話させていただいたように、本当に人材が育って、地域ごとにまちづくり協議会ができるならば、ふさわしいと思うんですが、何も人材をつくらずに、現在の組織を活用しながら進めておられるような感じを受けるので、今後、今のリーダーが交代されたら、なかなか人材ができてませんから、やっぱり個人を優先されますので、地域の担い手というのは少なくなってくる。これが現状だと思うんです。

甲賀市の提言書を見させてもらったら、まずは人材育成からだというような文言が入ってますし、私もそれが本来で、我々社会教育委員会がどういったことを研究し、生涯学習課を中心に、人材育成を行えば、もっと各種団体が率先してまちづくり協議会の中へ入ってきて、リーダーとしての指導力を発揮してくださる。

【委員長】

本当は、そういう手順をきちんと踏んでくべきだったと、私も思います。そうじゃないところが非常に多いですね。これは、全国的な傾向として、行革担当部署、それから、まちづくり担当部署が、まちづくり協議会の設置を急いで、そして公民館をコミュニティセンター化して、そこに全てを委ねていくという傾向が、全国的な傾向として起こっています。

そこに、御指摘のとおり、実際の人材づくりは追いついていないということが現状だと思います。しかし、我々で精いっぱいできることはないのかと。しかも、この生涯学習、社会教育の立場から何ができるかといったときに、それはやっぱりきちんとした学習体系をつくって、そこで貢献できる人づくりをやっていこうじゃないかというのが、我々の目的というところがございます。

私が恵那市に派遣されて、生涯学習推進部長として在籍していたとき、実は恵那市も、草津市と同じ現象が起こっていたんです。

講座というものが、てんでばらばらであると。各公民館はあったんだけど、みんなコミュニティセンターになったという中でどうやっていこうかと。

従来の社会教育、公民館で行われてきた趣味・教養が中心のものも、これも全くそれを切り捨てるわけにもいきませんね。ということで、しかし、今の政策的な人材もつくっていかなきゃならんと。まちづくりを担う人材もつくっていかなきゃならんといい中で、そうしたものを全部、私はもう一回、体系的につくり直したんです。

コース分けというのを、私はやったんですね。それを大きく言いますと、教養コース。今までの公民館で行われてきました趣味・教養的なものですね。おけいこ事みたいなところ。これも非常に大事にされている方がいらっしゃるわけですから、ここを全く捨てるわけにはいきません。ここはここで残しつつ、しかし、新たに政策コースという、ちょっといかめしいですけども、こういう政策を学べるコースというものもつくったんです。

ここはまちづくり協議会のリーダー層、あるいは自治会のリーダー層、あるいはそのほかでも関心のある方に来ていただいて学んで、これは市の職員が講師をやるんですね。あるいは専門家を呼んだりして。ここを学べば、市の大体の政策がわかると。こういうものをつくったんですね。さらに発展してことを詳しくもっと学びたいというときは、専門編というものをつくったわけでございます。

それからもう一つ、産業経済コースという、これも新設しました。ここは何かというと、やはり先ほどの近江八幡市も同じことなんですが、とにかく一言で言ったらまちづくりなんです、地域のビジネスモデル、コミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスという言葉はありますが、それはもうかるという意味でのビジネスではなくて、ボランティアだけでは済まされないところがあると。

これをきちんとビジネスとして回っていくような、地域課題の解決をしていかなきゃならんということで、そういうことが学べる講座をつくったり、あるいは実際に、地域経済ですね。これは地元の社長さんに講師をお願いしたり、地元の経済のことを知らずして、地元の活性化はないわけですね。そういったことを学べるような講座をつくりたい。それから、まちづくりのノウハウですね。実際にまちづくりの先進的なリーダー、これは県外からも呼びました。おとなりの愛知県や長野県や、そういったところで活躍されているリーダー層を呼んで、こういうことで地域おこしをやったとか、そういうことを学べるコースをつくった。

こういうふうに体系化して、そして、これは本校と私は呼びましたけれども、そこは中央の、草津市で言うと、どこがいいんでしょうかね。そういったところに一つおいて、それから、各地域のコミュニティセンターにおいても、その縮小版ができるような形で、従来の公民館で行われていた教養コースと、それから市民参画地域塾というような市民の皆様が企画立案して、市民の手で行われるような講座というものをやっていたかというようにもつくったわけでございます。これを体系化したわけでございます。

さらに、今までもあったんですけど、このように位置づけでいう形で市民の、あるいは団体の皆さんが中心になってやられる自主企画講座とか、市民登録講師、こういった制度も別々にはあったんですけども、こういったものも一つ市民大学の中に位

置づけて、大学連携なんかもこの中で実現しております。実践女子大学というところと連携を結んでいたんですが、それまで全く連携のことは、実際は、ほとんど中身はなかったです。それを実際に、東京から代表として来てもらって話していただくというようなこともやったわけです。

このように全庁的な、それぞればらばらで行われていたものを一つにして、立派な冊子もつくって、一つにすれば、実は、行革の効果も生みまして、それぞればらばらのチラシをつくったんですけど、一つにまとめたら結構な冊子ができるんですね。

そういうようなこともありまして、恵那三学塾という名前もつけてやったというのが、この例であります。そこに今回も、草津市においてもつくっていくときには、一つ参考にしていただけたところはあるんじゃないかなというふうに思っています。

もうひとつ、コミュニティ事業団と生涯学習課とまちづくり協働課が入りまして、1年かけまして研究会をやりまして、一つの市民大学ですね。今の学習体系の原案をつくろうじゃないかということでやってきたところでございます。

体系をつくっていくときに、大事なのは生涯学習課だけで進めていると全庁的なものにならないんですね。行政というのは非常に縦割りでございまして、生涯学習課でやったら、それは生涯学習課のものだろうと、こうなっちゃうわけですね。それから、コミュニティ事業団がやってると、またコミュニティ事業団のものじゃないかと、こういうことになるわけです。

そういうんじゃないんですね。地域の人材は、あらゆる部署が地域の人材をつくっていかなきゃならないわけでありまして。

そして、市役所の庁内だけでなく、外部の市民、あらゆる団体、経済界、こういった皆さんにも入っていただいて、まちづくり協議会ももちろん入っていただいて、そういった皆さんと一緒に、この地域の学習体系を運営していこうじゃないかと。こういうことを概念的に思っているわけでございます。これもできる限りではございますが、そういう体制をとっていきいたいなど。

そして、やっぱり本部はどこかに置かなきゃならんと。

そして、また地域には、草津市の場合は14の拠点があるわけでございますから、そこに、これは別にどちらが上か下かとか、そういうことじゃないんですけど、そういったところにもリンクしながら、今地域の皆さんでやっぱり困ってらっしゃるのは、これは私がかかわっている湖南市でもそうなんですけれども、結局、冒頭にお話しましたように、交付金という形でいろんなものが合わさった形で地域に「ぼん」とお金が渡されるんですね。その中で「こういうこと、こういうことをやりなさい」ということを言うわけですよ。しかし、実際問題、地域は困っちゃうんですね。「これ、やりなさい」と言われたって、どうやってやるんですかと。

例えば、その中で、そういう講座をやりなさいと。項目としては、多分あると思うんです。じゃあ、それをどうやって具体的に、あるときに「こういう講座を展開しなさい」と言われたって「どうやってやっていくんですか」というのが地域の現状だと思うんですね。

できるところは、そういうことを今までやってきた。しかし多くのところは戸惑っておられると思うんです。これは草津市だけじゃないです。湖南市でも、みんな同じ現象が起きてます。

だから、そういったところにきちんと本部として「じゃあ、こういうことをやったほうがいいですよ」とか「こういうことをやるには、我々がこういう講師を紹介しますよ」と「こういう組み立てたほうがいいんですよ」とか、こういうことをフォローできるような、助言できるような本部機能というのは、必要であろうというふうに思うんですね。それにしたいがいなさいということじゃないですけどね。

そして、また地域は地域の、それぞれの地区の独自の事情というのもおありでしょうから、そういうことを踏まえた地域独自色のある講座を展開されるということも、これはまたあっていいわけなんですよ。

しかしながら、そういう一つの指揮系統といいますか、助言していくような、支援していくような系統というものをきちんともっていないと、てんでばらばらのことになって地域が困るということになってるわけでありまして。

ですので、一つこうした体制ときちんとしていくということが大事かなというふうに考えております。

そして、具体的にこんな講座が考えられるんじゃないか。必要ではないか。そして、また現状を、コミュニティ事業団とか、各まちづくりセンターで行われているものも踏まえながら、こういうようなカリキュラムが考えられなきゃいかんということで原案をつくっております。

例えば、まちの基礎、まちを知るということですね。これは大津市がやっておられる大津学なんていうのは、ここの段階ですね。まちの見方がある。そして、まちを今度は実際に経営していこうと。まちづくり協議会の話になってきますね。そして、スキル、さらにもうちょっとスキルを高めていこうと。それから、分野別に、いろいろ環境や福祉や、子育て支援や防災や、いろんな地域には課題がありますから、それらをきちんとやっていこうというような項目があるんじゃないかと。

また、形態としては、従来の座学があったり、フィールドワークがあったり、実技があったりと、そういうようなことをいろいろ組み合わせていく必要があるんじゃないかなというようなことですよ。

そして、本校ではこういうことをやりますから、地域の人たちにもここへ来ていただいて、また地域は地域で、またそれに習うような形、プラスまた地域の独自のものをしながら、地域としてのカリキュラムを構築していただくというようなこと。

それと、やはりまちづくり協議会の役員の皆さんなんかの研修コースというようなものは、必ず必要じゃないかなと。

私の知っている例でありますと、まちづくり協議会ができるときには、最初のどういうものかという研修は、大体まちづくり協働課からやるんですね。でも、それっきりなんです。そうすると、最初は研修を受けた人は知ってますけど、その後は続かないんですね。

次の世代に交代していけないんですね。あるいは、今の世代がいらっしゃらなくなったときに、じゃあ誰が担うのかということになってるわけであります。

ですから、こういったものは、常に毎年開催しなきゃいけないんです。毎年。恒常的にどんな人でも、リーダー論で申し上げると、リーダー層に対する研修ということが必要だということには、私も全く賛成なんですけど、しかし、リーダーというのは、そう簡単にはできないんですね。ですから、ある意味で、その突出した本当にリーダーシップがとれる人というのは、ごくわずかでございます、多分、ここにお集まりの委員の先生なんかは、リーダーに推されることは多いと思いますけど、そういう人は少ないわけでございます、むしろ誰が、住民の誰がその役に当たっても、きちんとそれが務められるように、やっぱり民度を高めていくということが一言でいうと、そこが大事だと思いますね。

そういうものは、一朝一夕にしてなるわけではありませぬので、やっぱりきちんと、いろんなこと、政策やまちのことを学べる環境をつくっておくということが私は必要じゃないかなというふうに思います。

本来これは、まちづくり協働課が、まちづくり協議会のほうに委任する前にやるべきことなんですけれども、そこはじゃあ我々がやろうじゃないかということでございます。

しかし、そこにもきちんとまちづくり協働課を初め、いろんな部署の市役所の庁内の各担当部署に参加をいただいて、それぞれの人材づくりに貢献していただくということをやっていきなというふうでございます。

皆さんの御賛同が得られればですけども、草津市の研究会のほうで、こうした体系図や講座の原案というものをつくっておりますので、これをたたき台にしていただきながら、各委員の先生方から「もっとこういうものを入れたほうがいいんじゃないか」とか「こういう体制でいったらいいんじゃないか」とか「こういう仕組みをさらにつけ加えたらいいんじゃないか」とか「現実にこれを地域でやった場合、こういうことが問題になるから、この辺はきちんと提言しておいたほうがいいんじゃないか」とか「市役所にこういうことは求めているほうがいいんじゃないか」とかいうようなことを肉づけしていけば、この提言書はおのずとできてくるんじゃないかなというふうにも考えているところであります。

こういったところで、ここは自由な御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

これは皆さんにお聞きしたいと思いますので、では、C委員から、ぜひお願いします。

【C委員】

何かプラスアルファできたらいいなということなんですけど。

今、現実に考えてらっしゃるこのコースですね。継続されてるんですか。この研究会とかは。

【委員長】

研究会は、1年単位でございますので、もうこれは3月で閉めます。もうこの研究会の提言書として3月に出ますので、また皆さんにお示しさせていただきたいと思えます。

【C委員】

この中に福祉系が余り入ってなかったような気がするので、学びの対象として、地域で地域の福祉というのは必要だと思いますので、社会福祉協議会、それも地域の団体の中に入ってるんですけども、福祉系のことも、ちょっと入れていただくといいかなというふうに思いました。

【委員長】

確かに、必要だと思いますね。

地域福祉は、地域におきましては、必ず必須になってきますので、あと防災とか、そういうところが必ず出てくると思えますので。

【C委員】

あと、南草津に新しく産官学の連携でできましたアーバンデザインセンター、UDCBKも何らかの形で絡められると楽しいかなと、おもしろいかなと思えます。

【委員長】

わかりました。ありがとうございます。

D委員お願いします。

【D委員】

まちづくりセンターは、いろいろと色々な意見があるんですけど、これを見せていただいたら、一番いいなと思うのは、やはりまちづくりだから、まちの方みんなも寄ってするというのを、今草津学区ではそれが実現できてないのでね。だから、こういうふうな理想的な、まちの方も全部入っておられるんで、こういう形のことをこれからしていきたいなと思っておりますし、今おっしゃったように、社会福祉協議会との連携は必要と思うので、ここへ入れていただいたら、ありがたいかなと思えます。

【委員長】

ありがとうございます。

E委員お願いします。

【E委員】

先ほど、B委員が言われたのは、もう切実な声だと思ってるんですね。やっぱり何かを始めるときに、どういう手順でやったら、一番スムーズに行くのかという、本当は下から積み上げていくほうがちゃんとした建物が建つのに、上からつくっていくから、大きくなり過ぎて崩れるというふうなことになるんですね。

本来は、下から積み上げていって、地元なり、地域の声を聞きながら、その上に要するに立てていくというふうなことをしないとイケないのに、これを逆をしてくるんですよね。市の場合ね。

もう始まってしまってるから、今さらというわけにもいかないのですが、例えば、事例のところで、本校と地域校みたいな感じで分けているのですが、市は要するに、まちづくり協議会に任せますみたいな形で終わるんじゃなしに、本来は裏方としてサポートする部分というのが必要と思うんですね。

そうすると、本校に当たる本部みたいな機能を市の中につくってもらって、それは市の中のいろんな課の人に入ってもらって、そこに一括でまち協あたりから質問なり、お願いなり、希望なりが行けば即座にわかりましたと。では、どこどこの誰々に行ってもらいますというふうな機能がないと、これはどこの課に電話したらいいんやろうと。よう市役所へ来て、年寄りの人が迷われるんですよ。どこどこ言ったら、ここ違う。3階ですとか言われて、言ったら、また違う。結局、わかってないわけですね。中にいる人は、もちろん、わかっていると思うんですよ。そうやけど、来た人にもわかるようにするには、どうしたらいいかということ、やっぱり考えてもらわないとあかんし、もしそれができるなら、その本校という前に、市の中にまちづくりに関する課の全部ここへ電話すれば、対処しますよという部分を、やっぱりつくってもらわんとだめじゃないかなというふうに思うんですね。

【委員長】

おっしゃるとおりで、実は恵那市でやったときには、これと同時に恵那市生涯学習まちづくりセンターという機能、体制をつくったんです。私は初代所長にみずから就任して、今、おっしゃったとおりのことをやったんです。

要するに、そういう学習体系の情報を一元化して、市民の皆さんがとにかく何か困って、何か相談したら、何か生涯学習がやりたいんだといったときに、とにかく私のところに来なさいという窓口を一元化したんです。

そこから、各課にふるなり、講師を紹介するなり、こういうことをやったらいいですよということをアドバイスしたんですね。

それと同じようなものをここにもたせていきたいなというふうに思っています。

【F委員】

基本的には、委員長がたたき台をとありましたので、それを参考にして、まだ皆さんでしたほうがいいんですけど、私は人権擁護委員の代表ですけども、もう一つはまちづくり協議会の理事で、上尾という町内会長もしているんです。

草津市は、少子高齢化がそんなに進んでないということですがけれども、私の町内会は逆に、35年前に団地ができて、そこからもう入ってくる人はいないところなので、少子高齢化で言ったら33.3%、だから入ってくる人はいないし、どっちかというところとちょっとずつ減っていくという感じで。生涯ですから60代、70代、また80代の方が本当に生きがいをもって、この地域で活動ができるのが未来図と思うんですね。若い人が元気なものもあるけれども、年配の方々も本当に生きがいをもってやっているということを考えた場合に、我が町内ではどうなのかなと言ったら、何をしたらいいんかということで、まずは事業をやって、それをみんなでするだけコミュニティをつくらうとしてるんだけど、特に、男性の方は、なかなか外に出て一緒にやるのも、やっぱり少ないですからね。

また、役もできない方が、だんだん出てきましてね。20年先はどうなってるんかなという。誰も役員ができない人ばかりということが、高齢化になった場合のことを考えて、70代とか、この方が本当に地域に溶け合って、本当にここに住んでよかったと言えるのか。講座をやったからいいとかじゃなくて、横のつながり、励まし、助け合う、そういうソフト的なことが必要かなという、今ちょっと身近におく課題としてあるんですけれども。

【委員長】

ありがとうございます。

別にこれは、元気世代だけということはありませんでして、もちろん、高齢者世代ですね。あるいは学生世代も全部入ってやるものをつくっていきこうということですので、あらゆる視点から、みんなで構築していけたらと思います。

今では、福祉に関しますと、例えば、福祉の部署がきて、主催するようなものが単発的に行われてるというようなことが多かったと思うんですね。

それを、そこだけじゃなくて、市民大学というような学習体系の中でやっていったほうが、より効果もありますし、多くの方がそこに参加できたり、知り合ったりとかできるものですから、そこに相乗効果があるわけなんです。

そういうことを各部署には、わかってもらって、市全体でやっていきましょうよということが一つの効果としてあるわけなんですけどね。その福祉の視点も非常に大事だと思います。高齢化という視点は、非常に大事だと思いますね。またお願いしたいと思います。

B委員、お願いいたします。

【B委員】

年度末に製本ができるというお話を基礎に、一つもし言えるならば、地域の人材活用の登録窓口的な組織をつくられて、その活用方法が地域でデータ形式でそういったものを、例え、一日のうちの2時間でも、私はこういうことにお役に立たせてもらい

ますよとかいうていただくような、そういう機関をつくられて、一緒にプラットフォームをつくっていったらなどは思うんですけどね。

【委員長】

地域人材バンクのことですよ。

【B委員】

はい。これも地域にあってもいいですし、本部にあっても結構なんです。

【委員長】

そうですね。市全体にそういうものがあって、地域からそういう情報をいただいて、こういう人がいますよと。こういうことに関しては、ポイントがアドバイスできますよというようなことは、やっぱり必要ですよ。

やっぱりすごい専門家とか、えらい先生ばかり呼ぶことではなくて、そういった地域で皆さんが先生になれる方はいっぱいいますからね。

【A委員】

先ほど、おっしゃっていたように、やはり本部機能が必要なんじゃないかなということと、現役世代の方って働いてて、その方が参加しやすいという、そういうものが何か必要なんじゃないかなと思いますね。お母さん方は参加されるんですけど、父親も、忙しいとは思っただけけれども、地域の中でその人たちが、いつかは定年を迎えても加わっていただきたいので、仲間をつくれる環境というものをつくれたら。

例えば、子育ては、母親はコミュニティがあるんですけど、父親同士のコミュニティがないと、相談する場所というのがないんじゃないかなと。

ただ、そこには、やっぱりいろいろな面で、煩わしい関係とかも、いい関係もあれば、大変な面も出てくるので、それを考えながら、うまくないかなという、勉強会的なものでつくってけるといいんじゃないかなと思いました。

【委員長】

おっしゃるとおりです。

私も恵那市でつくるときには、その辺は大分検討しまして、やっぱり現役世代が一番実は、集まりやすいのが水曜日の夜だなど。例えば、水曜日の7時から、6時半からとかからやる講座をつくったりとか、あるいは土日でやったり。土日の講座をつくったりとか、ふだんは公民館だから平日行いますからね。

そういうのをいろいろ研究して、やっぱりそういう人たちが参加しやすいような時間帯とかをつくったというのがありますので、そういうことの工夫は必要かなと思いますね。

【E委員】

体系的などというのには、委員長おっしゃったように、今各部局でやられてるさまざまな事業について、これを一つのものとして捉えたいということだと思うんですね。生涯学習システムと言った場合には、これどう運用していくかという、組織的な視点というのは、これはきちんと入れとかないといけないだろうと思うんですね。

草津の場合は、いわゆる中央公民館の機能はもうなくなってます。で、将来の生涯学習センター構想といったものもない。要するに、先ほどからおっしゃってるように本部機能、実質を担う本部機能ですね。具体的な現場を担う本部機能というのが、全く今の課題の中にはない。その中でシステムをどうつくっていくかということは、恐らく議論していく一つの大きな課題になってるかと思うんですね。そのあたりの部分をきちんと押さえておかないと、実質を伴わないシステムになりかねないという恐れがあるなど。そのあたりの将来的に、じゃあ、市としてどういうふうに取り組んでいこうとしているのかも踏まえた上で、何が必要かということも、きちんと提言の中に盛り込んでおかないと、実質的なものには、担保されるものにはなっていないだろうなという気がしました。

それから、先ほどA委員がおっしゃった現役世代というのは、どうしても今、地域のことになると、元気なお年寄りばかりが目立ってきますので、若い人たちがということも大事なんですけど、もう一つ、私は世代横断的な仕掛けをどうしていくかということだと思うんですね。若い人が参加するということも大切なんですけど、そういうのって世代をどう横断して参加していただいて、そこで世代間交流をしていくかということ、そうした仕掛けをどうつくっていくかということ。そうすると、そういったものを一つ視点としてもっておくことも必要かなという気がしています。

【委員長】

おっしゃるとおりですよ。

そこを担保していただくためにも、この提言書を社会教育委員会議として、公的なものとして、教育長なり、市長なりに提言していくということがいうところが、やっぱり必要かなと思いますね。

【H委員】

少し古い話ですが、平成19年ごろに、ある市のまちづくり協議会の事務局を担当していたことがあります。その中で、いろんな学区ごとに立ち上げてきて、やはり温度差がありましたね。

例えば、20学区あるとしたら、早くできたところ、できかねてるところなど学区、地域によって立ち上がり方がまちまちです。

それは、既存の団体、あるいは既存の役員をつかったところは早いように思うけど、

続かない。担当をしていたところ、隠れたリーダー、そういう方を発掘されて、その方を利用して、早く立ち上げたし、いろんなことができるようになったというような経験をもっています。

先ほど、Bさんがおっしゃいましたリーダーバンク、どのまちでもあるんですが、見直しがされてない。あるというだけで、立派な冊子ができたって、どの市町でもあるんですけれども、活用してください。それだけですわね。

リーダーになれる人は結構おられる。それが活用できてない。ただ、データバンクがあるから使えと、それだけではだめだと思うので、もう一度データバンクの見直し、隠れた人の発掘、なかなか難しいと思うんですけれども。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、人材バンクも形骸化していたら、何の意味もないわけでありましてね。やっぱりまちづくりサポートセンターというのは必要なんですよ。まちづくりをサポートしていく中間支援というのが必要なんですね。NPOの支援機構は結構あったと思うんですけれども、まちづくりそのものに対してフォローするということは、ほとんどないんですよ。

我々でできるところは提言していきたいなと思っています。

【I委員】

大体、おっしゃっていただいたので、そんなにお話することもないんですけど、先ほど、福祉も必要だとおっしゃっていましたが、私も子育て支援をしているんですけれども、個人的なことですけど、先だってマンションの自治会がありまして、今年理事になりまして、ちょっと提案をしたことがあります。

町の内部は、確におっしゃったように、もう高齢化してるんですね。会長さんとか、役員さんが。比較的若い、マンション住民の方たちも町内とかかわりたいという意識はあって、町内会費だけおさめてる。収支報告書をもらう。それだけの関係ではという話が出たので、私もちょっとお口添えさせていただいたんですけど、今度、時間のあるときに、町内の方々とマンションの住人と話し合いをもつことになったんです。

やっぱり子育ても、マンションの人というのは、小さいお子さんが多いですし、皆さん、これからですので、少しでも現役の世代の方が、ある程度請け負うとか、公園のお掃除を手伝うとか、そういうこともあってもいいんじゃないかという提案をしました。

ただ、一生そのマンションに住んでるかと言え、そうでもないかもしれないんですけど、それもまちづくりの一環だと思うので、お手伝いも必要かなという考えを示して、他にも、例えば、公民館を開放して子どもさんたちの遊びの場をつくったりと

か、それもお父さんも見えたりしてますし、とってもいいことだなと思ってます。

あとは、何か気づきがあったときに、子育ての資料をマンションの掲示板に張らせていただいています。

少しずつですけども、こういう参加を手伝って、自分も、そういうふうになりたいなど。

【委員長】

ありがとうございます。

そういった今既に活動されておられるような団体の皆さんが入っていただいて、そして、そこでお互いにいろんな活動を展開していただくと。この市民大学のしくみの中でですね。そういうことをまたつなげていただく。参加できるような舞台をつくりたいなという思いなんですね。

【J委員】

今、公民館で自主サークルとして活動していく中で、ひとのつながりが広がっていると感じているのですが、講座や勉強会に動員で参加するときに、よく意味を理解せず参加している人が多いと感じています。何を学ぶのか・何のために参加するのか意味をもたせることが大切だと思います。

嫌々講座を受けに行くのと、そこにはちゃんと意味があるんだよということを、やっぱりわかった上で行くのは、全然違うと思うので、そういう人たちが一歩、たまたま今回は動員をかけられて行ったけれども、これによって、これ自分のところのことが問題だったんだな。じゃあ、次、自分たちも何かしようというようなことになればいいなと思いました。

【委員長】

政策とか、市全体のことを常に学ぶ機会がないと、催し的になっちゃうんですよ。そういう意味も、この学習体系の構築というのはあるんですね。

【副委員長】

今、言われたのが、その趣旨を理解していけるといいなという、確かにね。皆さんがいけるといいなと思いました。

私は草津市での勤務はずっとなんですけど、3校目なんですね。今年初めて老上に寄せてもらったものですから、地域によって、市民センターとしての活動も随分違うなというふうには私は感じさせていただいています。

今、老上で、本当に皆さんいろいろとされてるし、学校への働きかけも大変多いですね。子どもが参加させていただく機会が大変多いし、相互関係が随分できてるかなというふうには思っています。

そういう意味では、やはり市として、生涯学習の体系づくり、システムづくりを構

築させていくということに関しては、先ほども何回も言われているように、やっぱりある程度、そこを平らにしていけないといけないので、やはりリーダーの養成であるとか、本部機能がしっかりしないと、そこが担保されてないのかなというのは、つくづく感じました。

それから、あともう一つは、そういうふう子どもたちがいろいろと地域に出かける機会も、よくあるんですけど、年配の方が元気にいろいろと活躍されてる姿があるんだけど、その間ですよ。やっぱりそこを継続させないといけないのかなというのは、つくづく思います。

だから、いろんな活動の中で、子どもたちが小・中と育ってきて、リーダーとなって、今度、小・中の子どもたちを指導するような活動をされてる、そういう場面もあるんですが、そういうふうなつながりをもたせることで、この生涯学習もより継続的につながりをもたせられるといいなというふうに、つくづく思っています。

具体的に、じゃあ、どういう仕掛けをしていけばいいのか、そういう仕掛けというのは、いろんな活動で見えますし、ぜひ、そういう視点も大切にいただければありがたいなというふうに思いました。ありがとうございました。

【委員長】

どうも、ありがとうございました。

それでは、まとめたいと思いますけれども、こうした「体系的な生涯学習システムの構築」というタイトルを進めていって、研究会の原案をたたき台にしながら、今、各委員の皆さんからおっしゃっていただいた指摘事項全てがそのとおりだと思います。

そうしたことを我々で練っていきながら、まとめていきたいという方向で御承認いただきたいのですが、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

【委員長】

ありがとうございます。

それでは、来年度、いよいよこういったことで具体的に皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

他によろしいでしょうか。

では、以上で会議を終わります。どうもありがとうございました。

4. 閉会
